

北海協同組合通信

2020年6月11日(木)
第17414号

購読料：1カ年84,000円＋税 日刊(土日祝日休刊)

発行 株式会社北海道協同組合通信社

発行人 新井 敏孝 編集人 高田 康一

〒060-0004 札幌市中央区北4条西13丁目1番地

TEL 011-231-5261 FAX 011-209-0534

E-mail: tusin@dairyman.co.jp

URL: <http://www.dairyman.co.jp>

学生支援、北大農学部で米と牛乳無償支給

札幌農学同窓会の要請でJAグループ提供



新型コロナウイルスの影響で生活が困窮している学生を支援しようと、北海道大学農学部の卒業生らでつくる札幌農学同窓会(松井博和理事長)は10日、北大の農学生(農学部生および農学院生)を対象に、学部前庭で米と牛乳の無償支給を実施した。配布に当たって

は、同会からの要請を受け、北大と包括連携協定を結ぶJAグループ北海道が、今年デビューした「えみまる」2,400kgと森永乳業のLL牛乳1,200ℓを提供。コロナ対策として大学ではオンライン授業などが行われてきたが、この日は配布時間の午前10時から午後3時の間に多くの学生が元気な姿を見せ、1人につき米2kgと牛乳1ℓを受け取った。

札幌農学同窓会が5月28日にスタートした「農学生緊急支援プロジェクト」の一環で、農学生バイト支援も兼ね、学生も自らアルバイトとして配布作業に参加した。配布開始に当たって松井理事長は「札幌農学校から続く同窓会には1万6,000人の先輩がいる。コロナの中、先輩たちは皆さんがどうしているのか心配して、たくさんの寄付を寄せてくれたし、JAグループからも支援をいただくことができ、今回の取り組み

が始まった」と述べ、プロジェクトに賛同し、協力してくれた関係者に謝意を示した上で、集まった学生に向け「皆さんは素晴らしい将来をつくってくれる人たちだと期待している。そして、皆さんもこの先困っている人がいたら手を差し伸べて、その人にお返ししてください。まずはコロナをみんなで乗り切りましょう」と呼び掛けた。

準備に当たってきた同窓会の久田徳二理事・事務局長は「当会からの要請に対し、JAグループ側は『未来の農業・農村・農学を担う若者たちのために』と、全面無償援助を決定してくれた。希望者のほぼ全員、約1,200人の学生にお渡しすることができる」と感謝を表明。同窓生でもあるJA道中央会の平田靖農政対策部長は「大変だろうが、しっかり食べて、乗り越えてほしい。また、農学部で学ぶ皆さんには実習やアルバイトなどで生産現場にも足を運んでいただき、農業の現場についても実感し、学んでいただきたい。頑張ってください」とエールを送った。米と牛乳を受け取った農学部4年の男子学生は「塾講師をしていたので収入は減った。支援はありがたい」と話した。

また、同窓会事務局によると、同窓生を中心に呼び掛けた農学生生活支援金の寄付は6月4日までの1週間で500万円を超え、第1弾として選抜した150人を対象に、1人3万円の振り込みを8日から開始した。今月中旬には緊急支援プロジェクトの実施を知らせる会報が約9,000人の同窓生に届くことから、寄付の総額に応じて第2弾の配布も予定しているという。同窓生からの反響の大きさに、関係者は「北大農学部の先輩たちの後輩に対する熱い思いを再認識することができた」と口をそろえる。また、今回支援を受けた学生からは「将来同窓会に恩返ししたい」

「北海道のために貢献したい」などのメッセージが寄せられているといい、同窓会顧問を務める横田篤・前北大大学院農学研究院長は「将来の北海道農業を支える人材として頑張ってもらいたいという思いで、農業団体を含め、多くの人が支援してくれたが、そうした先輩の熱い思いを知り自分もそれに応えようと思ってくれた学生の気持ちがうれしい」とし、「今の若い人は飢えを知らないが、今回のことで学生が身をもって飢えを感じたというのは、農業や農学について学んでいく上で、得がたい経験になったのではないか」と話している。

（高田 康一）